非核・いしかわ

2016 年 4 月 20 日　月刊第 213 号　発行／非核の政府を求める石川の会

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

非核五項目

① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　いしかわ市民連合が発足、野党共闘へ　参院石川選挙区、野党統一候補が実現
2 面　シールズ本間信和さんのスピーチ
3 面　穴水町が平和首長会議に加盟
4 面　横山壽一金沢大学教授の退職記念講演要旨
5 面　IPPNW 北アジア地域会議報告　原　和人
「非核・平和の自治体づくり」発行にあたって　中村昭一
6 面　核兵器廃絶と被爆者援護を訴え続ける　河﨑俊栄
7 面　独標より：平和の俳句　じのかずひろ
編集室より
8 面　被爆者が描いた体験画展　中田喜重
絵手紙コーナー　矢敷　節
非核平和・行事予定

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める！

いしかわ市民連合が発足

参院選で野党共闘を申入れ

安保法制を廃止し、立憲主義・民主主義の回復を求める県内の市民団体、個人が参加して「いしかわ市民連合」が三月二四日に発足しました。市民が連携して野党共闘をはじめ新たな政治の実現を後押しするためです。

いしかわ市民連合の発足記者会見を行う共同代表ら

（3 月 31 日、県庁記者会見室）

いしかわ市民連合は四月四日、参院選石川選挙区における野党共闘の早期実現、統一候補の擁立を求めて民進党、社民党、共産党に申入れました。

参院石川選挙区で野党統一候補が実現

無所属の柴田未来氏で合意

夏の参院選石川選挙区で、民進党、共産党、社民党の野党三党は、四月一二日、無所属で出馬を表明している柴田未来氏を統一候補として一本化することで合意しました。

野党三党と柴田氏を交えた一二日の最終協議では、安保関連法の廃止や集団的自衛権行使容認の閣議決定、憲法改悪を阻止する「政策協定書」が結

「非核・平和の自治体づくり」を発行しました

会員には一冊進呈します

【関連5面】

花鳥風月

新聞下段の広告というのは、意外と目に入るものだ。右翼雑誌の約一〇年分の新聞広告を比較検討するという、一風変わった内容の「憎悪の広告」という本を読んだ。著者によると、雑誌そのものを読む人よりも、広告で見出しだけ見る方が圧倒的に多いのだから、これは独立した媒体とみなすべきだ、とのこと▼「戦争責任」とか「教育」「ジェンダー」など、テーマごとに検討がされ、なかなか興味深い洞察もある。たとえば、「中国人は〇〇だから劣等」など、民族には固有の性質があるという思想は、戦争責任の問題へあてはめると、「戦争中に残虐行為があったとしたら、日本人は残虐な民族＝劣等となるから決して認められない」というレトリックになる。戦争責任を否定する背後には、そうした心理があるのではないか、と著者は言う。世界の誰もドイツ人を残虐な劣等民族と見たりしていないのだから、これは妄想というしかないが、彼らの民族観ではそうなってしまう▼彼らの主張も、あれはあれなりに、各テーマに通底する思想があるようだ。戦争責任を否定する人が、同時に中韓嫌いで、伝統的な家族観や国家の権威が好きな人であるのは、偶然ではないらしい。（山）

ばれました。

会見で柴田氏は、「安倍政権に対し憤りを持っているすべての人の思いを受け止める立場となり身が引き締まる思いです。特に安保法制の廃止とTPP問題を訴えていきたい。この国の未来をつくる活動に精いっぱい頑張りたい」と決意を述べました。

野党の参院選候補者が一本化できたのは、〝アベ政治を許さない〟市民の運動が後押しして実現できたものです。安保法制廃止の運動が自公政権への新しい対決軸を鮮明にしました。

参議院選挙に関する政策協定書

民進党石川県総支部連合会、日本共産党石川県委員会、社会民主党石川県連合、参議院選挙石川選挙区予定候補者・柴田未来は、第二四回参議院選挙に際して、中央での五野党党首会議の合意、石川県での三野党の合意を踏まえ、下記の政策課題について協定する。

柴田未来は、当選した場合、中央での「五野党合意」と下記の政策実現のため誠実に努力することとし、民進党石川県総支部連合会、日本共産党石川県委員会、社会民主党石川県連合は、市民と力をあわせて、柴田未来当選のために総力をあげて奮闘する。

記

（1）立憲主義にもとづき、憲法違反の安保関連法廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回をめざす。

（2）アベノミクスによる国民生活の破壊を許さず、貧困や格差のない国づくりをすすめ、人間らしい雇用の実現、子育て、医療・介護の抜本的充実を図る。

（3）安倍政権による憲法改悪を阻止する。

（4）安倍政権打倒をめざす。

民進党石川県総支部連合会、日本共産党石川県委員会、社会民主党石川県連合、参議院選挙石川選挙区予定候補者・柴田未来は、ひきつづき、中央の野党協議、石川県の三党協議を踏まえ、県民の声を反映するために政策的一致が広げられるように努力する。

二〇一六年四月一二日

民進党石川県総支部連合会代表　近藤　和也　㊞

日本共産党石川県委員会委員長　秋元　邦宏　㊞

社会民主党石川県連合代表　盛本　芳久　㊞

参議院選挙石川選挙区予定候補者　柴田　未来　㊞

自由と民主主義のための学生緊急行動（SEALDs）の中心メンバーが来県

本間信和さんのスピーチ

（筑波大学三年生）

金沢市香林坊でスピーチする本間信和さん

■三月一九日、安保法制の廃止！憲法壊すな！緊急集会

今日は三月一九日、昨年の九月一九日、安保法制が強行可決されてから丁度半年になります。半年前の一九日未明に国会前でSEALDsは「野党は頑張れ！」「野党は共闘！」と言ってきましたが、昨年一一月、一二月までには野党はひとつにまとまると思っていました。しかしなかなか野党共闘は進まず、正直いって野党はまとまらないのではと心配していた人も多かったと思います。

今年に入ってようやく野党五党が安保法制の廃止、立憲主義の回復で合意できました。今年夏の参院選挙、そして次の衆院選挙などあらゆる国政選挙で今の自公政権の政治は許すことができないと、選挙協力が進むと思います。

私たち市民はこれまで色んな局面で安倍政権、自公政権の悪政にNO！の声を上げてきましたが、次の参院選挙ではできるだけポジティブなことを言いたいですね。こういう人たちを国会に送り、私たちの国の行方を任せたいというポジティブな選挙をやりましょう。

これまでデモには参加するが、選挙には行かない人もありましたが、今度はいろんな人たちがまとまり、固まって「安倍政治は許さない！」の声を示しましょう。

■三月二〇日、平和を願う市民のウォーク　ピースウオーク2016

昨年九月一九日に安保法制が国会で可決されてから、僕たちSEALDsは「野党は共闘！」と言い続けてきました。参院一人区の各県で野党の候補者調整が進んでおり、石川県でも様々な人たちが努力されていると思います。

安保法制が成立した後も昨年、そして今年に入っても全国各地でデモが行われています。デモをする文化が育っています。私たち市民はこれまで選挙にはあまり関わってこなかったが、次の参院選挙は私たち、そして次の世代の未来がかかった大事な選挙になります。無理しなくてもよい、できる範囲でよいので、例えばデモに参加する、パンフレットを配るなど小さな行動の積み重ねが未来を築いていくと思います。一緒に頑張りましょう。

■ピースウオーク：デモ行進中のスピーチ

私たちの政治は、私たちの生活に無関係ではありません。もうこの国から戦争で死んだり、殺したりする人を出したくないんです。「誰の子どもも殺させない」

誰ひとりとして戦争で死ぬようなことはあってはならない。こんな当たり前のことが何でできないんですか。憲法違反までして、そこまで戦争がしたいのですか。

この国の未来を、この国の子どもたちを権力に屈させるわけにはいかない。そのために声を上げているんですよ。

自分には関係ない、無関係と思っていても、今後、戦争で死ぬのは私の子どもかも知れない、あなた達の子どもかも知れない。そういう未来にはしたくないんですよ。一緒に未来を勝ち取りましょう。

写真左はピースウオークに参加した野党統一候補の柴田未来さん

■コール

・野党は共闘！
・民主主義ってなんだ？（これだ！）
・戦争するな！
・戦争したがる総理はいらない！
・憲法守らぬ政府はいらない！
・平和を愛する政府をつくろう！
・選挙に行こうよ！
（PEACEにVOTE！）

穴水町が平和首長会議に加盟しました

平和首長会議ホームページの四月一日付新着情報に石川県穴水町（石川宣雄町長）など「新たに三二自治体が平和首長会議のメンバーに加わりました。これにより、加盟都市数は世界一六一か国・地域七、〇二八都市となりました」と掲載されました。

平和首長会議への県内加盟自治体、は二〇〇八年の野々市町から始まり、毎年増加し、四月一日現在で一六か所（加入率八四・二％）になり、未加盟は加賀市、小松市、能美市の三市になりました。**【別表参照】**

平和首長会議への国内自治体の加入率は九三％です。平和首長会議では、より多くの自治体が加盟することにより、平和を願い、核兵器廃絶を求める機運を高めることができると全国自治体の一〇〇％加盟をめざしています。このため未加盟自治体には繰り返し加盟のお願い文を郵送し、重点自治体には直接訪問しています。

非核石川の会から二月一九日、広島平和文化センター（平和首長会議事務局）を訪問した際、応対いただいた担当課長から「一月二八日、二九日に国際推進部部長が加賀市、小松市、能美市を訪問し、各総務部長と懇談して、三市揃って来年度加盟の意向を確認できた」との報告がありました。

県内自治体の一〇〇％加盟が目前になりました。非核石川の会では本年も五月に「平和事業に関する自治体アンケート」を実施し、県内自治体の平和施策の拡充と平和首長会議への加盟を働きかけていきます。

石川県各自治体の平和首長会議加盟の推移
（2016年4月1日現在）

加盟年	自治体名	加盟累計
2008年	野々市町／2011年11月に野々市市に移行	1
2009年	内灘町、金沢市	3
2010年	珠洲市	4
2011年	七尾市	5
2012年	かほく市	6
2013年	川北町、志賀町、中能登町	9
2014年	津幡町	10
2015年	白山市、羽咋市、宝達志水町、能登町、輪島市	15
2016年	穴水町	16

＜未加盟自治体＞小松市、加賀市、能美市

◇講演要旨◇

社会保障解体の狙いと いのちと人権を守る対抗軸

横山壽一

「社会保障解体」への対抗軸を明解に話された横山壽一先生

市場化による社会保障の「解体」

講演冒頭、ご自身の学生時代のお話が展開され、その後、社会保障の現状を解説。昨今、社会保障の市場化が推進されているが、そもそも「市場」とは、社会保障の本質である「共同性」とは乖離したものと指摘。言い換えるならば、市場化の促進は、あるべき社会保障の「解体」と同義なのである。したがって、本来ならば、社会保障を維持するためには「共同性」の再構築が最優先されるべきだが、それとは真逆の道を歩んでいるのが現状である。さらに、社会保障の「拡充」はおろか、高齢化による自然増分のみの対応しか行わないこと、社会保障を経済成長の一つの道具として位置づけていることから、「現政権は、本気で社会保障を壊しに掛かっている」と称した。

「地域差の解消」と「見える化」

続いて、現政権の社会保障解体の手法について解説。キーワードは「地域差の解消」と「見える化」の二点である。そして、その前段階としてＩＣＴの活用が挙げられる。ビッグデータ、マイナンバーを用いた国家による管理体制・データベースの構築。その中の「地域差」を焦点に、経費の低い地域を基準に据えて、他の地域で徹底的な削減を行う。地域の独自性が認められない社会への転換であり、「まるで、蟻地獄のように、下げられていく」と話した。しかし、実際には、すべてが厚労省の思惑通りになってはいないことも確かであり、地域生活の実態を無視した政策は、いずれ矛盾に突き当たるだろうと指摘した。

安倍政権の特徴～社会保障解体への道筋～

ここで、現政権の政策全般に通じる特徴を解説。まず、第一に、社会保障における「理念」の転換が行われていること。「社会保障は共助である」という刷り込みによる「自助・共助・公助論」という強力で誤ったイデオロギーの形成がそれに当たる。「地域包括ケア」などは、その最たる例である。

第二に、社会保障のビジネス化である。経済界、特に「経済財政諮問会議」の影響力が強大化しており、「介護離職ゼロ」方針をはじめとして社会保障が市場化・営利化の道具になっている傾向にあることも問題となっている。

第三に、「医療・介護総合確保推進法」の問題。現在、医療と介護の一体的な見直しが行われ、川上から川下への流れが推進されている。医療・介護の「再編」と謳われているが、実際には、医療・介護機能を破壊しているのが現状である。さらには、医療・介護が必要なのにサービスを利用させない、という国民皆保険制度の「解体」も進められている。

第四に、自治体「単位」の変化が挙げられる。住民にとって、どれぐらいの医療が必要かというのは、最も住民に近い市町村単位で判断されるべきである。しかし、国保の都道府県移管にみられるように、「給付金管理」、「医療費抑制」を目的に、画一的な管理体制へ変化していることを危惧した。

そして、「地域差の解消」「見える化」である。これもまた産業化を目的とし、健康予防ビジネスへの活用も想定されており、自治体レベル、さらに詳細な「個人」レベルでのサービス管理・負担管理を強化することが目的となっているのである。

これらを総合すると、その道筋は、まさしく「社会保障の解体」へ向かっているということがわかる。

いのちと人権を守る「対抗軸」

最後に、前述の様々な方策による「社会保障解体」への対抗軸についての話題へ。

いのちと人権を守るための七つの社会保障のあり方を提起した。それは、①憲法理念に基づくこと、②ビジネスではなく、公共サービスとして確立されること、③住民本位の「地域医療構想」の対置、④人権保障としての「地域包括ケア」の確立、⑤ナショナル・ミニマムと地方自治の保障、⑥国民のための医療・介護情報活用、⑦最低生活を保障する負担のあり方、である。そして、昨年から今年にかけての安保法制に対して起こった国民の大きな動き、そのエネルギーを社会保障改善につなげることができるか。それが今後の課題であると話して講演を締めくくった。

（文責：大田健志）

◎本稿は、石川県社会保障推進協議会が三月二九日に開催した横山壽一金沢大学教授の退職記念講演要旨です。

非核・平和のひろば

ＩＰＰＮＷ北アジア地域会議が広島で開催される

原　和人

核戦争防止国際医師会議（ＩＰＰＮＷ）第九回北アジア地域会議が、二月二七日、二八日の両日、広島県医師会館で開催された。二八日は放射線被爆者医療国際協力推進協議会との共催で行われ、約一五〇名が参加した。

基調講演を行ったニューメキシコ大学医学部フレッド・メトラー名誉教授は、放射線影響研究所が収集・分析したデータは、世界の放射線防御プログラムを支える判断基準となっていると評価した。

広島県医師会館で開かれた
ＩＰＰＮＷ北アジア地域会議

◇シンポジウム◇「原爆被爆医療体験の継承と国際貢献」

その後のシンポジウム「原爆被爆医療体験の継承と国際貢献」では、三人のシンポジストが発言し、広島大学副学長の神谷研二氏は、東海村の被ばく事故以降、緊急被ばく医療体制の整備を行ってきたが、その中で福島原発の事故が起こった。これまでの経験を踏まえて、放射線災害からの復興に携わる人材育成の教育プログラムを実践していると報告した。さらに、神谷氏は福島県民の健康調査についてもふれ、小児の甲状腺がんは、現在のところ、福島原発の放射線汚染による影響とは考えにくいと述べる一方、長期による避難が、肥満、糖尿病の増加、肝機能異常、高血圧に影響を与え、うつ病などの精神疾患を増加させていると述べた。

◇シンポジウム◇「核兵器廃絶と非核兵器地帯」

翌日は、引き続きＩＰＰＮＷ北アジア地域会議が開催され、モンゴルからの五名の参加も含め約七〇名が参加した。反核医師の会からは、一一名が参加した。最初に総会があり、次回の地域会議をモンゴルで開催したいと表明があった。

その後、「核兵器廃絶と非核兵器地帯」というテーマでシンポジウムがおこなわれた。シンポジストの一人、大阪大学名誉教授の黒澤満氏は、現在検討されている、いくつかの核兵器条約についてわかりやすく解説を行った。また、広島平和文化センターの小溝泰義理事長は、核兵器の廃絶においては市民社会の運動が大きな役割を果たすと強調し、ピース・デポの田巻一彦氏は、北東アジア非核地帯の重要性について述べた。また、モンゴルからは、モンゴルが一国非核地帯を宣言した経緯について紹介された。

午後は、シンポジウムが開催された。戦後、広島の開業医たちが日常診療を続けるなかで、白血病などのがんの増加やぶらぶら病などの異常に気付き、ＧＨＱのプレスコードによる規制の中でも、その真実の究明を行ったが、その二世の医師たちが「父を語る」と報告し、ヒバクシャ医療を継承していくことの決意を述べた。

最後に、核兵器の廃絶に向けて新たな決意を表明する広島宣言を採択して、地域会議は終了した。

（全国反核医師の会代表世話人）

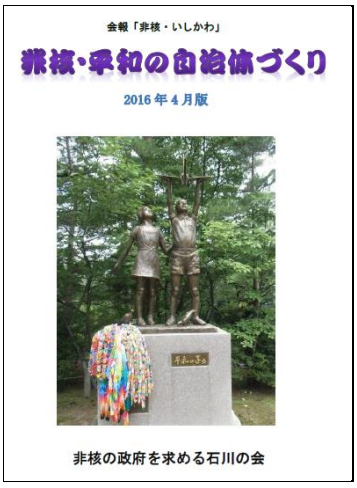
『非核・平和の自治体づくり』発行にあたって

中村昭一

〝戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない〟

『ユネスコ憲章』前文はこのように書き出し、先の大戦が世界の諸人民の間に疑惑と不信、無知と偏見による民主主義原理の否認、不平等の教義の広まりによって引き起こされたと規定しました。そして文化の普及と正義・自由・平和のための教育は人間の尊厳に欠くことはできないとし、「平和は人類の知的および精神的連帯の上に築かなければならない」と宣言したのです。

〝ここに私たちが皆に提出する問題、



きびしく、恐ろしく、おそらく、そして避けることのできない問題がある――私たちは人類に絶滅をもたらすか、それとも人類が戦争を放棄するか？〟

『ラッセル・アインシュタイン宣言』は、核兵器使用についての無謀な議論によって戦争になってしまうことが全人類の脅威であると表明することに躊躇しませんでした。そして宣言に、技術の進歩すなわち原子爆弾の開発が人類の歴史を変えたと記し、核兵器廃絶・科学技術の平和利用を訴えたのです。

しかし残念ながら、今日の私たちはその成果によって未だに安らぎを得てはいません。これは〝核〟がある限り続くものです。

日本国憲法は第九二条において地方自治の本旨に基づいてこれを定めるとし、法律によって地方自治の存在を侵害できないと定めています。ここでいう本旨とは、法律をもってしても侵害できない自治の核心部分を指し、国による統治に対立する側面を有するものです。自治とは〝自分のことは自分で処理すること〟（広辞苑）であることは自明です。

すなわち『非核自治体』を宣言することであれ、『平和首長会議』への参加であれ本来、国に対して何ら臆することなく意思表示できるものなのです。

この度、石川県内自治体の現況を調査・取材し、『非核・平和の自治体づくり』を発行することになりました。この冊子が、先の大戦の痛苦の体験から生まれた日本国民の〝不戦の誓い〟を新たにし、〝核兵器廃絶〟と〝人の心に平和の砦を築く〟という願いに沿ったものとなることを心から願うものです。

（非核・いしかわ編集長）

非核石川の会　リレーエッセー

核兵器廃絶と被爆者援護を訴え続ける

河﨑　俊栄

私は先の終戦の時は小学校一年生だった。富山の爆撃で東の空一面が真っ赤に燃え盛る光景は、怖くて母にしがみついていた思いがいまだに瞼に残っている。

一九六〇年の安保闘争の時、始めて団扇太鼓を叩いて国会を取り巻く抗議行動に参加した。それ以来、第一回世界宗教者平和会議の事務局の手伝い、第七回原水爆禁止大会平和行進・集会に参加。その後学習会や平和活動に参加した。

一九八三年八月五日、第一回「いのちをえらびとる断食の祈り」に参加、核兵器廃絶と被爆者援護を訴えて今日まで続けている。

縁あって二〇〇一年にパラオ共和国ペリリュー島・アンガル島の遺族五人を伴って慰霊の旅に出かけることができた。それまでは、パラオの国がどこにあって、何が行われたか知らなかった。そこで遺族の方を交えて、生存者の船坂弘氏の書かれた『血風ペリリュー島』を参考書にして勉強会を開いた。制空権・海上権も制圧されて弾薬はもちろん食料・水等の補給もないなか軍部の命令は玉砕せずに一兵たりとも命を長らえて、米兵を留めよとの軍命により玉砕よりも辛い苦しい戦いであったと述べられている。米軍は一ヶ月で占領できると侮っていたが、実際には三ヶ月も費やしている。

パラオ共和国ペリリュー島平和記念碑にて

ペリリュー島には今でも米太平洋艦隊ニミッツ司令長官が日本兵を讃える記念碑が立っている。その言葉は「諸国から訪れる旅人たちよ、この島を守るために日本軍人が、いかに勇敢な愛国心をもって戦い、そして玉砕したかを伝えられよ」と語っている。この戦いがいかに悲惨で残酷な戦であったか、証明するものである。

先の戦争で三〇〇万人もの戦死された方、いまだに遺骨収集されずに外地で眠っている方々の思いを考えたとき、憲法九条を変えて戦争する国に変えてしまうわけにはいかない。世界で広がっているテロ、力で抑え込もうとしても憎しみを生むだけである。憲法九条の精神を世界に広め、軍事費を教育や貧困・医療・社会保障等に回せば、世界恒久平和につながるものと確信している。

詩人会議かなざわ「独標」より

平和の俳句その2

じの　かずひろ

○マラリアに飢死に多数仏桑花
○禎純子師に敗戦句有りや無しや
○竹槍にバケツリレーの抗戦史
○戦時派の心に翳り揚花火
○したたかに生きし戦後や石蕗の花
○平和裡の小さい秋を探しをり
○去年今年平和の鐘を聞きながら
○好戦の煩悩祓ふ除夜の鐘
○初山河子子孫孫に平和あれ
○九条に傘寿の吾に年の酒
冬麗を劈くスクランブル三機
復興のさらに遅るる五輪まで
マイナンバー制度徴兵免れず
反撃の力蓄へよ冬籠
戦犯の孫九条を憎悪せり
百八に加へ不戦の鐘を打つ
十二月八日の臨時ニュースかな
小春日の戸別訪問署名享く
松過の街に繰り出すデモの列
（○印は、北陸中日新聞朝刊投稿句）

戦後七十一年へ

つい最近まで、華々しく「戦後七十年」のキャンペーンで過熱していたマスコミ（新聞やテレビ）に対して、政権への批判的なポーズも含めて、私は総じて政権から操作されているのではないかと懸念していた。はしなくも与党の幹部は、国民はやがて忘れるとの傲慢な内心を吐露したが、最近の状況をみるにつけ、さきがけて忘却したのは他ならぬマスコミであったようだ。また、この夏に行われる参院選に向けて、情報操作を裏付ける事実が次々と出てくる。マスコミ幹部と政府官邸とがたびたび「懇談」という名目でする会食、新聞への軽減税率の適用、外国の小規模のデモを取り上げても国内の五千人規模の反戦運動を黙殺する報道姿勢などは、その状況証拠ではないか。

そうした中で、中日新聞、東京新聞とその系列にある北陸中日新聞が、「戦後七十一年」と銘打った報道姿勢を堅持し、その一端として「平和の俳句」掲載をさらに継続した決断は、高く評価されるべきだろう。それ故、一千万人といわれる俳句人口に向けて、有季定型俳句への理解や俳号での投句を認めるなど、現俳壇の実情に応じた対応を図るならば、本企画の趣旨に副う応募が大幅に増えると思うが、如何だろうか。

《編集室より》

◎国内でただ一つ稼働中の九州電力川内原発の運転差し止めを求める仮処分申請について、福岡高裁は住民の訴えを棄却した。稼働中の原発の運転停止を命じた高浜とは真逆の結論である。これについて地元有力A紙は『最高裁の見解に沿う判決』、B紙は『福島の教えはどこへ』とこれもまた真逆の社説を掲載した。

A紙は「科学的知見をもたない裁判官は判断を下せない」「新基準は合理的」「司法判断が食い違う現状は信頼が損なわれる事態」「仮処分申請で原発を止める行為は不適切」「差し迫った危険性を主張すること自体に無理」とし、B紙は「不合理な火山の評価、問題があるやもしれぬ避難計画、住民の安全安心に照らしてみれば、どのような『合理性』が存在するというのだろうか」「九二年最高裁の判断よりも住民の生命と安全を守るという観点から、（司法は）自らの判断を明らかにするようになったはず」等と述べた。

福岡高裁は結局のところ〝社会通念〟なるものを持ち出して、事故の危険はあっても、国民は目をつむって原発を受け入れよ、ということにつきる。国民の命さえ守れない〝社会通念〟などありえない。国民を守る姿勢が問われている。住民は皆が読むから読むのではなく、地元紙の報道姿勢を自らの頭で考えて、注視して読まねばならぬ。（中）

◎非核・平和を求める自治体の動きで注目の記事（参照＝しんぶん赤旗・島田峰隆）を紹介します。米マサチューセッツ州ケンブリッジの市議会はこのほど、市の退職年金基金の運用について、核兵器の生産や近代化に関わっている企業や団体から投資をすべて引き揚げる決議を全会一致で採択しました。デニス・シモンズ市長が二日、市内で開かれた核兵器に関する会議で発表しました。同市議会は二〇〇九年に核廃絶を求める決議を採択。市と地元の平和団体、研究者らは核廃絶の流れを強めるために、投資引き揚げの決議を共同で追求してきました。（こ）

非核の政府を求める石川の会
第28回総会　ご案内

日時　6月11日（土）13:30～16:00
会場　近江町交流プラザ4階
● 記念講演
「宗教者と核兵器廃絶運動」
石川県宗教者平和協議会
理事長　河﨑俊栄さん
● 総会議事

「被爆者が描いた体験画展」⑲

石川県原爆被災者友の会　中田喜重

「火傷」

火に追われ、煙に追い立てられここまで逃げてきたが、はだしの足の裏は、火傷で立つこともできない。

「尊厳」

人間の尊厳は、そこにはなかった。ただ、黙々と真っ赤に膨れ上がった肉のかたまり。

無数のうめき、もがきながら水を求めて死んだ肉のかたまりを、陸に引き揚げて荼毘に付していた。

◎「被爆者が描いた体験画展」の絵は、一九七七年七月金沢市内で展示会が開かれた折りに中田喜重さんが撮影し、文は書き写されたものです。

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　矢敷　節

【告知板】

非核の政府を求める石川の会ホームページのサイドメニュー「非核・いしかわ」紹介をクリックすると、本紙をA4判にリニューアルした二〇一一年一月号からすべて閲覧できます。同年一二月号から掲載した「絵手紙コーナー」もすべて閲覧することができます。

≪非核平和・行事予定≫

月	日	曜	時	内容	場所
4	27	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	28	木	18:30	4・28「屈辱の日」沖縄を考える（講師　島袋夏子さん）	金沢市近江町市民交流センター4階
5	3	火・休	13:30	平和憲法施行69周年記念石川県民集会（講師　中野晃一さん）	金沢市本多の森ホール
	6	金	12:00	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	9日（月）～12日（木）			沖縄支遠ツアー　参加者募集　石川県平和委員会へ	小松空港発着
	11	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	19	木	16:00	戦争法廃止！憲法改悪阻止！ピースステント	金沢市四高記念公園・中央口
	22	日	10:00	「被爆2世として生きる」山口県被爆2世の会 寺中正樹・千尋さん	金沢市松ヶ枝福祉館1階いきがい活動室
	25	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	29	日	13:00	石川県社会保障推進協議会・総会記念講演(講師　藤田孝展さん）	金沢市松ヶ枝福祉館4階集会室
6	8	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	9	木	12:00	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	11	土	13:30	非核の政府を求める石川の会総会と記念講演(講師 河﨑俊栄さん）	金沢市近江町市民交流センター4階
	12日（日）～17日（金）			核兵器廃絶国民平和大行進・能登コース	輪島市出発～内灘町まで
	18日（土）～24日（金）			核兵器廃絶国民平和大行進日本海コース	石川県津幡町つづら折り～福井県吉崎町
	19	日	14:00	戦争法廃止・ピースステント・集会・デモ行進	金沢市四高記念公園・中央口
	22	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
7	24	日	10:00	「反核・平和おりづる市民のつどい」	金沢市卯辰山公園 平和の子ら像前広場
	31	日	10:00	ピース9フェスティバル2016	白山市美川文化会館
8	3日（水）～17日（水）			石川県原爆被災者友の会「原爆と人間展」	石川県庁19階展望ロビー

＊ 祝日は休日としています　＊毎週金曜日18：30　どいね原発アピール行動　金沢駅東口

＊ 昼デモ　隔週水曜日に行動

＊「戦争法廃止・ピースステント」は、毎月19日（強行可決された日）に2016年7月の参議院選挙前まで実施されます